

第1期（平成28年7月～29年6月）かわさき健幸福寿プロジェクト 実施状況について①

1 かわさき健幸福寿プロジェクトの概要

- ◆ **かわさき健幸福寿プロジェクトとは**
高齢者の自立支援に向けた質の高いケアを評価する仕組みの構築を目指して平成26年度から開始したプロジェクト
- ◆ **評価の対象**
「要介護度」、「日常生活動作（ADL）等」の改善のほか、要介護度の一定期間以上の維持
- ◆ **評価の必要性**
要介護度は利用者の状態像を表す重要な指標であり、介護保険の給付はその改善・維持に資するように行い、自立支援につながるような内容、水準でなければならない。（介護保険法第2条）
しかし、今の介護報酬体系では、要介護度の改善は事業収入の減少を招く側面がある。本市では、要介護度等の改善・維持に資する質の高いケアを提供する事業所にインセンティブを付与することで取組意欲の向上を促し、全体としてのサービスの質の向上を目指す。

2 実施スケジュールについて

かわさき健幸福寿プロジェクト	平成28年			平成29年		
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月
事業期間		→				
参加受付	→					
中間調査			→			
結果集計・評価					→	
事例発表会 説明会等	★ ★				★	

- ◆平成28年7月から平成29年6月までの1年間を取組期間として実施
- ◆第1期プロジェクトと並行して事例発表会を平成29年4月に開催

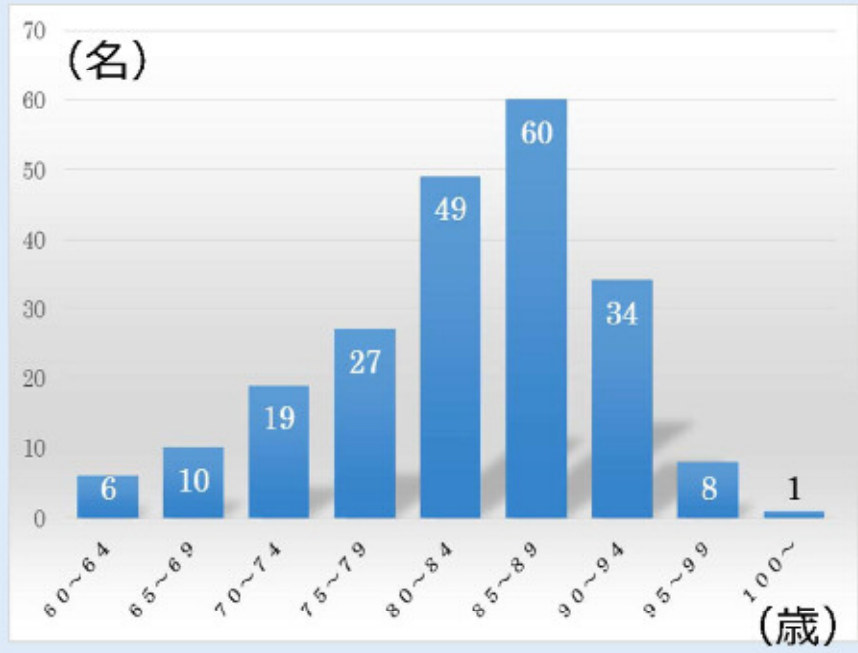
3 第1期参加事業所

◆参加事業所は **246事業所**

訪問介護	25
訪問入浴	4
訪問看護	12
訪問リハビリテーション	3
居宅療養管理指導	5
通所介護	29
通所リハビリテーション	11
短期入所生活介護	11
短期入所療養介護	2
特定施設入居者生活介護	10
福祉用具貸与	15
居宅介護支援	54
介護老人福祉施設	18
夜間対応型訪問介護	1
地域密着型通所介護	16
認知症対応型通所介護	9
小規模多機能型居宅介護	3
認知症対応型共同生活介護	14
地域密着型老人福祉施設入所者生活介護	3
看護小規模多機能型居宅介護	1
総計	246

4 第1期参加者

- ◆参加者は **214名**
- ◆年齢別の参加者分布はグラフのとおり。



- <参加者のデータについて>
- ◆男女比はおおよそ 1 : 3.5
男性48名 (22.4%)
女性166名 (77.6%)
 - ◆参加者の最高齢は102歳 (女性)
 - ◆プロジェクト開始時点における要介護度の分布
- | | |
|-------|-------------|
| 要介護度1 | 43名 (20.1%) |
| 要介護度2 | 43名 (20.1%) |
| 要介護度3 | 41名 (19.2%) |
| 要介護度4 | 54名 (25.2%) |
| 要介護度5 | 33名 (15.4%) |

第1期（平成28年7月～29年6月）かわさき健幸福寿プロジェクト 実施状況について②

5 要介護度を改善した方

- ◆要介護度の改善は 214名中 34名（15.9%）
- ◆このうち要介護度を2段階改善した方は8名、1段階改善した方が26名

<要介護度改善度合い別、ADLの推移一覧>

要介護度が2段階改善した方	ADL				合計
	5ポイント以上改善	4～1ポイント以上改善	0ポイント	0ポイント未満	
要介護度5から要介護度3	1名	1名		1名	3名
要介護度4から要介護度2	1名	1名			2名
要介護度3から要介護度1					0名
要介護度2から要支援2		1名	1名		2名
要介護度1から要支援1		1名			1名
合計	2名	4名	1名	1名	8名

要介護度が1改善した方	ADL				合計
	5ポイント以上改善	4～1ポイント以上改善	0ポイント	0ポイント未満	
要介護度5から要介護度4		4名	1名		5名
要介護度4から要介護度3		3名	1名	3名	7名
要介護度3から要介護度2	1名	1名		1名	3名
要介護度2から要介護度1		3名	1名	2名	6名
要介護度1から要支援2		2名	2名	1名	5名
合計	1名	13名	5名	7名	26名

6 一定期間の要介護度「維持」の考え方

（単位：か月）

	要介護度	全体	男性	女性
平均継続期間	要介護1	18.7	17.2	19.7
	要介護2	18.9	17.7	19.7
	要介護3	20.0	18.6	20.8
	要介護4	21.7	18.9	23.1
	要介護5	-	-	-

- ◆本プロジェクトにおける要介護度の「維持」については、要介護度認定を受けた市内の全被保険者における、男女別・要介護度悪化までの平均継続期間を算出し、その期間を上回った場合、要介護度を「維持」されたとして評価を行う。

7 要介護度を維持した方

- ◆要介護度を一定期間以上維持した方は 214名中 105名（49.1%）
- ◆105名中86名の方がADLを改善ないし維持（0ポイント以上）している。

<要介護度別、ADLの推移一覧>

要介護度を維持された方	ADL				合計
	5ポイント以上改善	4～1ポイント以上改善	0ポイント	0ポイント未満	
要介護度5	1名	3名	18名	3名	25名
要介護度4	1名	4名	13名	7名	25名
要介護度3	0名	0名	11名	4名	15名
要介護度2	0名	3名	12名	0名	15名
要介護度1	0名	5名	15名	5名	25名
合計	2名	15名	69名	19名	105名

なお、要介護度等の改善・維持において本市の成果指標に至らなかった方は 214名中75名であった（35.0%）

8 インセンティブ付与の考え方

① 成果指標

◆要介護度

平成28年7月1日時点と比べて、期間終了時点（平成29年7月1日）で**改善**した場合

その他、改善に至らなかった場合であって、同一の要介護度を**一定期間を超えて維持**した場合

◆ADL等（変化を測るため、認定調査票における能力評価の調査18項目が指標）

平成28年7月1日時点と比べて、平成29年7月1日時点で**改善**した場合

（ADL改善の評価は、直近の要介護認定時に、本市の認定調査を受けている方に限る。）

② 事業所へのインセンティブの内容

- ◆市が主催するイベントにおける**市長表彰**

- ◆**報奨金** 5万円

※対象は「要介護度の改善」又は「ADL等の一定以上の改善」があった場合

- ◆成果を上げたことなどを示す**認証シール**の交付
- ◆**事例集**への掲載
- ◆市の公式ウェブサイト等への掲載
- ◆事例検討会等における公表

第1期（平成28年7月～29年6月）かわさき健幸福寿プロジェクト 実施状況について③

9 事業所へのインセンティブ付与

①インセンティブ付与とマトリクス表

- ◆ 要介護度が1以上改善した場合、またはADLが5ポイント以上改善した場合、インセンティブとして 報奨金、認証シール（金）、実績の公表などを行う。

ADL改善 要介護度	5ポイント以上	1ポイント以上 4ポイント以下	0ポイント	0ポイント未満
改善	報奨金 認証シール（金） 実績の公表	報奨金 認証シール（金） 実績の公表	報奨金 認証シール（金） 実績の公表	報奨金 認証シール（金） 実績の公表
維持	報奨金 認証シール（金） 実績の公表	認証シール（銀）	認証シール（銀）	認証シール（銀）
改善・維持 以外	報奨金 認証シール（金） 実績の公表	認証シール（銀）	認証シール（銅）	認証シール（銅）

★↑縦が要介護度の改善度合い、→横がADLの改善度合いを表す

②事業所へのインセンティブ付与実績について

- ◆ 要介護度が改善、またはADLが5ポイント以上改善：延べ 87事業所（報奨金、認証シール（金）、実績の公表）
- ◆ 要介護度を一定期間以上維持、またはADLが1ポイント4ポイント改善：延べ182事業所（認証シール（銀））
- ◆ 改善・維持以外：延べ158事業所（認証シール（銅））

ADL改善 要介護度	5ポイント以上	1ポイント以上 4ポイント以下	0ポイント	0ポイント未満	
改善	14事業所 3.3%	39事業所 9.1%	3事業所 0.7%	23事業所 5.4%	79事業所
維持	2事業所 0.5%	35事業所 8.2%	94事業所 22.0%	40事業所 9.4%	171事業所
改善・維持 以外	6事業所 1.4%	13事業所 3.0%	91事業所 21.3%	67事業所 15.7%	177事業所
	22事業所	87事業所	188事業所	130事業所	427事業所

- ◆ 246事業所のうち、複数の利用者が参加されている事業所もあるので、インセンティブの対象となる事業所の総数は延べ427事業所

10 参加利用者へのインセンティブ

- ◆ 川崎市要介護度等の改善・維持促進検討委員会からの意見
⇒ 参加者にも何らかのインセンティブを付与することはできないものか
- ◆ プロジェクト参加者の継続した取組へのモチベーション、事業の啓発等につながることを目的に、右記のような利用者インセンティブを作成
- ◆ 参加者214名全員に配布を行う予定
- ◆ 要介護度等の改善など、成果をあげた事業所と参加者の表彰式を8月25日に開催



キーホルダー
参加の証カードB 7サイズ（介護保険証と同サイズ）

第1期（平成28年7月～29年6月）かわさき健幸福寿プロジェクト 実施状況について④

11 第1期プロジェクトの総括と第2期プロジェクトの参加状況

● 第1期プロジェクトの総括について

◆ 取組効果把握調査の実施結果

- ・事業所において、職員が要介護度等の改善・維持を意識したきめ細やかなケアの提供を常に心がけられるようになった。
- ・チームケアによる他サービス、他職種間の連携強化など、要介護度等の改善・維持に向けた行動の変化が見られ、結果として、プロジェクト参加を通じ、34名の要介護度の改善と105名の要介護度の維持等に寄与
- ・事業所の行動変化が利用者及び御家族の積極的な要介護度等の改善・維持に向けた意欲の向上につながっていることを確認した。

◆ 事例発表会の開催（平成29年4月）

- ・第1期プロジェクト参加4事業所による、創意工夫の見られる取組の報告
- ・利用者が主役であることの再認識、自立支援に向けた質の高いケアの実現に向け参加事業所間で共有を行った

< 要介護度が改善された方の現状について（一例） >

※あきらめていた故郷 鹿児島に、飛行機を利用し、自分の足で里帰りができた。

※今までよりも意欲的にデイサービスに通われ、新たな目標にまい進されている。

※要介護度の改善により、デイサービスに通える回数が減ってしまったが、代替として、老人いきいの家などにも通いながら在宅で元気に生活をされている。

● 第1期プロジェクトを通じて得た課題について

- ◆ プロジェクト参加時における事務手続きの煩雑さ。
- ◆ 本人・ご家族の同意を得ることに時間を要する。
- ◆ 利用者のモチベーションの維持
- ◆ チームケアへの理解と事業所の新規参加の促進

● 第2期プロジェクトへむけた改善点について

- ①参加要件の緩和（直近の要介護認定が初めての方や要介護認定調査時に入院していた方を参加対象とする）や、手続きの簡素化を実施（ケアプランの提出を求めないことや様式の簡素化）
- ②プロジェクトの趣旨について利用者、ご家族、事業所その他市民に向け広報を実施（リーフレットの作成・配布、参加者募集説明会の開催（平成29年5月）等）
- ③参加利用者に対する参加の証カードやキーホルダーの配布
- ④第1期参加事業所への継続した取組を促すとともに、新規事業所に対し個別訪問等を行い、チームケアへの理解など、取組趣旨の説明と参加意向の確認を行った。

本プロジェクトの円滑かつ効果的な取組となるよう適宜見直しを予定

- ◆ 本市を含む自治体により構成された「介護サービス質の評価先行自治体検討協議会」による国へのさらなる要望行動により、制度への反映を目指していく。

● 第2期プロジェクトへの参加状況について

（平成29年8月18日現在）

◆ 参加申請事業所数	⇒ 270事業所	
◆ 参加意向のある事業所（※1）	⇒ 43事業所	合計 313事業所
◆ 参加対象者数	⇒ 350名	
◆ 参加意向のある方（※1）	⇒ 113名	合計 463名

（※1）電話等によりプロジェクトへの参加意思確認を行っているが、申請書、同意書の一方または双方の提出がこれからの場合を「参加意向あり」としている。

事業所へのインセンティブ（認証シール）



介護が必要になっても……

「したい」「やりたい」をあきらめない!

介護サービス事業所とともに。

けんこう ふくじゆ

かわさき健幸福寿プロジェクト

第1期表彰式 & 記念講演

日時

平成
29年

8月25日(金)

午後2時～午後4時(開場午後1時30分)

予約
不要

入場
無料

第1部 福田紀彦市長挨拶

第2部 成果をあげた事業所の表彰式

第3部 「妻として、女優として～夫・大島渚と
二人三脚で乗り越えた介護の日々～」

記念
講演

小山 明子

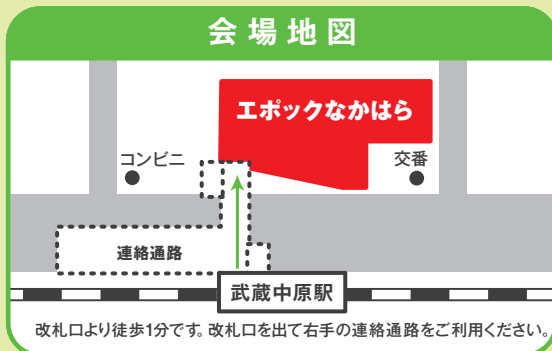
お気軽に
お越しください

会場

エポックなかはら 3階 大ホール
(川崎市総合福祉センター)

川崎市中原区上小田中6丁目22番5号

※ 駐車場はございません。公共交通機関でのご来場をお願いいたします。



お問い合わせ



川崎市健康福祉局長寿社会部高齢者事業推進課
☎044-200-2454

かわさき健幸福寿プロジェクト

検索

© 小尾淳介



けんこうふくじゅ

かわさき健幸福寿プロジェクト

要介護状態の改善・維持は、介護保険制度のサービスが目標とするものの一つです。たとえ介護が必要になっても高齢者の皆様の「したい」「やりたい」をあきらめないでほしいという願いを込めて平成26年4月に設置したのが「かわさき健幸福寿プロジェクト」です。

具体的には、要介護度等の改善・維持に積極的に取り組んだ介護サービス事業所を評価する仕組みにより、事業所全体のモチベーション向上、サービス利用者・御家族の要介護度等の改善・維持に対する意欲の向上などにより、介護サービスの質が向上していくことを目的とした本市独自の事業です。



川崎市長
福田 紀彦

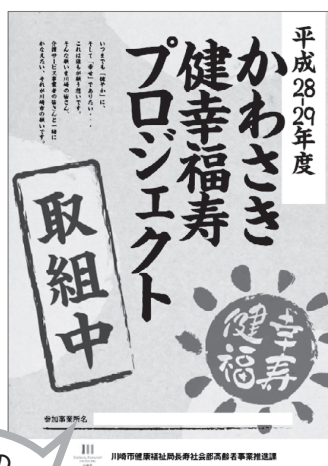
第2期（平成29年7月～30年6月）かわさき健幸福寿プロジェクト

参加者 募集中!

平成29年7月1日から30年6月30日までの1年間をサイクルとして、本プロジェクトに参加いただいた介護サービス事業所が、利用者の希望を踏まえ、要介護度や日常生活動作(ADL)の改善・維持に取り組んでいただき、一定の成果を上げた事業所(チーム)に対し、成果に応じたインセンティブを付与します。

インセンティブの内容

市長表彰、報奨金、成果を上げたことを示す認証シール、川崎市公式ホームページ等への掲載など



取組中の
事業所の目印は
コレ!



このシールが
貼ってあるところが、
成果をあげた
事業所です!

参加には事業所による所定の手続きが必要となります。

参加資格

- 要介護度等の改善・維持に向けた意欲がある方
 - 平成29年7月1日時点で要介護1～5の認定を受けている方
 - その他、次のいずれにも該当しない方
 - ・直近の要介護認定時と比較して、プロジェクト参加申請時点の心身状況に著しい改善が見られる方
 - ・給付制限等の対象となっている方
- ※その他詳しい要件はホームページをご覧ください。

参加ご希望の方は、介護サービス事業所へご相談ください。